



福島江の桜

長岡市の中心部を流れる福島江は、市民に「おやま」として親しまれる悠久山（緑風16年発行vol.25参照）と並んで桜の名所として愛され、多くの人で賑わいます。福島江の水面に大きく張り出した枝先に淡い紅色の花をつけた姿は、町並みの中にあっても、そこだけが別世界のような感じさえします。福島江の桜は、今から80年前、大正の時代に駒野廣治（こまのひろじ）さんが植えたソメイヨシノの苗木がはじまりでした。駒野さんは苗木に支柱を施し、肥料を与え、抜かれてしまっても、また、苗木を植え、辛抱強く桜を育てました。その意

志は、後の時代に続く人々にも引き継がれ、現在でも多くの人々の心を和ませる桜の名所となっています。

川辺の桜の写真を見て、何か気づきませんか？この写真は今年の福島江の桜です。これまでの見慣れた写真と比べてどうでしょうか？満開の桜の下を流れる水がありません。その原因は昨年の中越地震の復興工事に時間を要した結果と知りました。

近年、桜前線の形が崩れているといいます。温暖化のためでしょうか、桜の開花に必要な低温期間が九州では足りないため、南関東や北九州が一番早く開花しています。福島江の水と桜。この関係が現在の環境に対するひとつの指針となるのではないかと思います。

「サクラ」という言葉は「サツキ」や「サオトメ」と同じ穀物（稲）の精霊を意味する「サ」と、神が宿る場所「クラ」からなる言葉だそうです。雪解けを待って、稲の精霊が舞い降りる場所、越後の大地を潤す福島江。福島江の桜が永遠に豊穡を約束し、人々に幸いをもたらしてくれることを願わずにはいられません。



山河花園

また一つ、地球のかけがえの無さを見つけました……。とは、NHK「世界・ふしぎ大自然」最後のナレーションです。楽しみにしている孫達と一緒に、自然のすばらしさ、奥深さに毎週驚かされています。

●巨大化した人類の活動

は、地球自然の許容量を超え、人類生存の根幹にかかわる様々な危機的問題を抱えています。このような中、愛知万博「愛・地球博」が3月25日から開催されています。「自然の叡智」をメインテーマに、世界中の文化や知恵の交流によって未来への道筋を考え、体験しようとする博覧会です。是非訪れて、一緒に考えたいと思います。

●4月1日、長岡市は中之島町、越路町、三島町、山古志村、小国町と合併し、新・長岡市としてスタートしました。先ずは水害・地震の復旧・復興です。協会としても、園芸セラピーによる被災者ケア、事業を中心に一翼を担いたいと思います。また、1月1日には、和島村、寺泊町、栃尾市、与板町が加わります。共に手を携え合い、豊かで住み良い長岡市を創造したいものです。緑風の広報活動も、広範になります。委員一同頑張ります。